

5 (自由提案部門)

事業名	地域資源・古民家のI、Uターン希望者への情報提供をはじめとする利活用に関する調査事業
実施主体	NPO法人 日本古民家研究会
県関係課	地域政策課地域振興室

事業の成果

事業の目的 [定住促進]

- 当NPO法人では古民家の研究や活用を目的に活動しているが、景観的なものに配慮して古民家を現地保存・現地活用をするためには、UIターン希望者などへ情報提供して活用してもらうことが必要だと感じた。
- 自分達の側から提供できる情報がなかったため、この事業を活用して、行政との協働作業により情報収集を行うこととした。

事業の内容

- 松江市内についてはシルバー人材センター・公民館に依頼して、地元にある古民家に関する初期情報を集約した。
- 登録の承諾を得た古民家に専門担当者が訪問し、図面等を作成し、データ登録作業を行った。
- 県内住民(回答142人) 設計事務所(回答517事務所)に対して古民家の利活用に関するアンケート調査を実施し、報告書としてまとめた。



目的の達成状況 [概ね達成できた]

- 松江支部・出雲支部・大田支部・江津支部を中心に144件の調査を行い、17件の登録を行った。
- 登録数が少ないのは、持ち主が不明であったり、相続がしていないため権利者が多数であるため登録まで至らない物件が多かったためである。
- このような課題があることが分かったことも成果の一つであり、その課題をクリアする手法を検討している。

反省点・改善点

まず空き家がどこにあるかという初期情報の入手方法を検討する必要がある。特に市町村の担当者の方に、当NPOの活動に理解を求めていきたい。

協働の効果

県との協働内容 [県と協働して実施した]

- 調査の方法、初期情報の入手に当たっての課題について一緒に考えてもらい、他の事例からみたアドバイスや様々なアイデアを出してもらった。

県との協働効果 [十分効果があった]

- 初期情報の入手に当たっては、公民館が地元の情報に精通されているのではないかとということで市町村担当窓口の紹介を受けるなど、行政のネットワークが活用できた。

県への要望事項 [特になし]

反省点・改善点 [特になし]

市町村との協働 [協働して実施した]

- 松江市を通じて、公民館長会で事業趣旨を説明してもらった結果、自治会から円滑な調査協力が得られた。

事業の継続

事業成果の活用 [活用されている]

- この調査事業を通じたネットワークができた結果、情報が入ってくるようになり、現在30件程度まで古民家のストックができた。
- また、古民家ではないが、空き家の活用についての相談もあり、実際にUIターンにつなげる活動もしている。
- 古民家研究会と関係のある「さんいんキラリ」では、JTBと協働で長期滞在を目的とした古民家活用を始める。
- これは、パートナーと呼ばれる会員からの会費(入会金2万円、3年分会費3万円)を得て、快適な宿にするための改修費や運営費を負担してもらい、毎年無料で1泊2日の古民家利用をできるようにするものである。
- こうしたツーリズムでも古民家の活用を進めていきたい。

事業の継続状況 [助成を受けずに継続実施している]

- 県・松江市・山陰合同銀行・中国電力・山陰中央新報社・都市計画事務所等と協働で新しいUIターンの研究会を設け、U・Iターン希望者に対する空き家の活用についての検討を行っている。

協働による発展 [協働により発展できる]

- 上記の会の中で検討を進めているが、県GISへの掲載、県人会との連携を深めることを考えている。
- 古民家の活用については市町村の担当者に温度差があり、県の方からも働きかけをしてもらうとよい。

